

作品解説 雨ニモマケズ

【作者について】

宮沢賢治は、明治29年(1896年)、岩手県の花巻町に生まれ、盛岡高等農林学校(いまの岩手大学)に在学中、童話を書き始め、地質土壌肥料研究にとめました。このころ法華経を読んで感激、以後熱心な日蓮宗信者となりました。

その後、郷里の農学校の教師となりますが、4年後には農学校をやめ、自身も農民となつて、「羅須地人会」を設立。へ土に生きる明るい農民生活への理想郷建設のために農業技術改善の技師・文化指導者として活躍し、その一生は宗教・科学・文学・実践を通して、農民への奉仕に費やされたといわれています。多くの童話・詩・短歌・評論を書きましたが、ほとんど認められることなく、昭和8年(1933年)、38歳で生涯をとじました。没後、草野心平等によって紹介され、その作品が注目されるようになり、研究が進むにつれ価値が広く認められるに至りました。

【作品について】

賢治の死後見つかった、メモやスケッチが記された黒皮の手帖に、昭和6年11月3日付けで記されていた詩です。

郷土に生きる農民の暮らしを助けるための活動を続ける賢治でしたが、結核のため病に倒れてしまします。昭和6年(1931年)の夏は、低温、多雨により凶作。こよなく愛し続けた自然の持つ、過酷な一面に改めて打ちのめされ、それに立ち向かうだけの体力が自分に残されていないことを深く嘆いています。

『雨ニモマケズ』

みやざわけんじ
宮澤賢治

あめ
雨ニモマケズ

かぜ
風ニモマケズ

ゆき なつ あつ
雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ

じょうぶ
丈夫ナカラダヲモチ

よく
慾ハナク

けつ いか
決シテ瞋ラズ

い ず
イツモシツカニワラツテキル

いちにち げんまいよんごう
一日ニ玄米四合ト

みそ すこ やさい
味噌ト少シノ野菜ヲタベ

アラユルコトヲ

ジブンヲカンジヨウニ入いレズニ

ヨクミキキシワカリ

ソシテワスレズ

野原のノ松まつノ林はやしノ蔭かげノ

小サナ萱かやブキノ小屋こやニいテ

東ひがしニ病びょうき気きノコドモアレバ

行いツテ看かん病びょうシテヤリ

西にしニツカレタ母ははアレバ

行いツテソノ稻いねノ束たばヲ負おいヒ

南みなみニ死しニサウナ人ひとアレバ

行いツテコハガラナクテモイいトイいヒ

北きたニケンクワかヤソシヨウガアレバ

ツマラナイカラヤメロトイヒ^い

ヒデリノトキハナ^はミダヲナガシ

サムサノナツハ^はオロオロアルキ

ミンナニデクノボートヨバレ

ホメラレモセズ

クニモサレズ

サウイフモノ^そニ^う

ワタシハ^はナリタイ

★テキストは、「青空文庫」を基にし、ふりがなを追加しています。